

平成28年度 兵庫県立人と自然の博物館協議会

日時 平成29年3月14日(火) 14:00～15:50

場所 県立人と自然の博物館 大セミナー室

1 開 会

2 館長挨拶

3 議 事

(1) 報告事項

ア 「ひとはくの概要」について

イ 「ひとはくの事業活動」について

(ア) 中期目標の達成状況

(イ) 高校生のための生き物調査ツアーin 台湾

(ウ) レガシー継承・発信事業

(エ) 三田市有馬富士自然学習センター

プログラム運営事業

(2) 協議

「平成29年度 ひとはくの主な事業」について

4 質疑・意見

・博物館

当博物館は、平成4年に開館して来年(度)25周年を迎える。開館当時の職員の多くが、退官の時期を迎えた。私も、その一人である。この間に博物館も、保育所・幼・小・中・高との連携、大学や地域との連携、こどもひかりプロジェクトとの関わり、さらには文部科学省とのレガシー事業、恐竜関連プロジェクト、台湾での高校生交流プロジェクトなど、いろんな事業が実施された。その合間を縫って、研究員は各自の研究に取り組み、成果を発表している。

当館では、開館20周年に移動博物館車「ゆめはく」を購入した。また、魅せる収蔵庫や出張博物館など、いろんなキーワードとなる言葉も出てきたが、キーワードだけで予算等の都合で実行できないものもたくさんある。しかし、一方で様々なことが実現されつつある。国立科学博物館では、魅せる収蔵庫の調査費が来年度予算化され、数年の内に実現される運びとなった。

明るいニュースとしては、岩槻名誉館長がコスモス国際賞を昨年受賞された。賞が設けられて二十何年か経つが、日本人の受賞は初めてである。当館の開館25周年に合わせたかの受賞で、ひとはくも新たな時代を迎える時期に来ていると思う。

一方で、収蔵庫は満杯、雨漏りもする、展示の改修は出来ないなどの困難はあるが、研究員

たちはそれに立ち向かっている。

今日はその活動報告を行って、ご議論いただき、さらなる活動が出来るようご教示いただければと思う。よろしく申し上げます。

(博物館による事業報告)

・委員

たくさんの企画を実施していて、感心している。来年度事業として、収蔵庫の探検事業が挙げられているが、博物館のバックヤードを見せることには、引き込まれるものがある。とても有意義な企画だと思う。私は小学校に勤めているが、毎月ひとはくから「イベントのご案内」が送られてくる。その片隅に「人博大陸（4コマまんが）」が描いてあって、大人はよく分からないが、児童たちは喜んで読んでいる。クラス数しか送られてこないが、全児童（約170人）分増し刷りして配っている。消しゴムでのものづくりなどが載っていて、生活科や理科、総合的学習において、内容が役に立っている。

・委員

中学校の教育現場に携わるものから、一言。毎年、この場で申し上げることは学校との連携である。「ひとはくスクールキャラバン」であるが、この時期での周知・広報は、新年度の計画を立てる上で非常にありがたい。内容も相談いただけるとのことなので、先生方の授業改善に役立てられるのではないかと、期待している。

生徒が主体的になって進める授業をするよう、ニーズとして求められているが、まだノウハウがない。博物館の研究者から直接指導を受けられれば、授業の内容まで踏み込んで改善を進められる利点がある。どんどん進めて欲しい。

神戸市内の人文学系博物館もそうだが、中学生の来館者が少ない。キャラバンで博物館が持っている収蔵物を見て、面白いと思ってもらい、生徒に興味を持ってもらうようになればと思う。

・委員

私は高校に勤めている。今、中学生が少ないとの意見があったが、高校生は中学生に比べてさらに少ない。

今年度事業の中で、高校生の生き物体験ツアーがあったが、夏休みの時期は生徒が忙しいので、集めにくかったのではと思う。部活の合宿や国際交流など、事業が重なるのは仕方ないので、学校を通して早めに広報・募集をかけていただきたい。内容の詳細を、映像を活用して提示していただければと思う。

常設展示を見ようと思う高校生は、更に少ない。自校の生徒に、博物館について聞いてみたが、行きたい施設や見たい展示がないわけではないが、お金がかかるので二の足を踏んでいる感じだった。のびのびパスポート（小中学生に配布されている、提示すると入館料が無料になるパスポート）が、高校生にも配布されないかと思っている。

また、学校教育との連携において、自然科学系の部活動や科目では、指導いただけるものがある。生物・地学のネタはあるが、教員は指導に苦慮しているので、研究員にコーディネートをしてもらえればと思う。

・委員

2点申し上げたい。1点目は、専門の家庭福祉・家庭支援と保育の観点から。配布資料中の「たんぽぽさんぽ」に関心を持った。私自身が、参加したいと思う内容だった。自然という一つのテーマで、こんなに幅広く事業が提供できるのかと、興味深かった。

幼稚園や保育園の教諭も、日々の活動の中でいろんな知識は提供しているが、専門ではないので、こういった専門的知識を幼稚園や保育園にも発信して欲しい。そうすれば、この体験を広く子どもたちに伝えていくことができる。

2点目は、社会教育委員として。現在、未就園の1・2歳児がかなりの数に上っている。三田市にも子育て支援ひろばなどがあるが、その利用者の約7割が転勤などでの転入者という調査結果もある。地域になじめず、図書館や子育て広場などを行ったり来たりしている状態である。実は、イベントというものはこれらの人が、地域になじんでいく入口の役割も果たす。体験の場を提供するとともに、それらの人と地域の人とのつながりを持つ、きっかけの提供の場となるような仕掛けも、考えていただければと思う。

・委員

昨年、ひとはくからラフレシアやマヤランなど、大きな標本をお借りして企画展のメインとして展示した。

当園は規模が小さいので、企画が重要である。ひとはくから借りたものを展示するのは、一つのアピールポイントとなる。ひとはくの名前を借りることによって、人が集まる。今後も、ひとはくを利用していただいて、植物園運営に活用していきたい。ひとはくは、当園の目標である。

先ほど、中学校の話が出たが、当園では県立大学附属中学校が、ひとはく研究員とともに月1回授業を行っている。が、そういうことが何も書かれていない。他の中学校にも参考になると思うので、情報発信して欲しい。バックヤードツアーの話題もありましたが、確かにこの部分が少し弱いかなという感じは受ける。

・委員

神戸大学および同附属小学校との共同研究に参加している。数年来、毎年1回ひとはくを訪れ、主に化石や岩石をIT機器を用いて館内を見て回っている。

小学校の児童と一緒に見ているが、展示方法や企画展示が毎年少しずつ違って、それを見るのを楽しみにしている。

個人的には、スクールキャラバンに興味がある。国立科学博物館と多摩美術大学で、スクールキャラバンの共同研究を行っている。特に、特別支援学校の子どもたちを博物館に呼んだり、博物館を学校に招いたり、デジタルコンテンツの作成なども行っている。視覚・聴覚・身体などいろんな校種があると思うが、具体的にどんな取組をされるのか、伺いたい。また、iPadなどの機器を用いて、資料整理されると作業が進むのではないかと思う。

特別支援学校に出向かれる際は、私も少ないながらノウハウを持っているので、それを役立てていただきたい。

・委員

ひとはくは、博物館の中でも様々な先進的取組をしてきたが、それらが他の博物館・社会教育施設へどう浸透していったかの総括を、ぜひ行っていただきたい。それは、他の施設がノウハウとして、学べる状態にすることが必要ではないかと思うからである。

事業をしながら評価をする、そのプロセスを学術論文にまとめていただいて、ひとはく25周年の成果として発表していただきたい。

また、来館者数報告があったが、来館者の中身がどう変わったのか、分析されるのも良いかと思う。館の近辺だけでなく、キャラバンで遠方もサポートできているとは思いますが、兵庫県は広いので、結構抜けている部分も多いかもしれないとか、マイナスの評価になるかもしれないが、いろいろ分かるのではないかと。

館長から、収蔵庫がいっぱいとの話があったが、毎年数多くの収蔵品があるが、それらがどこへ行ってどう活用されているのか、保管状況も中期目標に載せておいてはどうか。協議会としては、かなり応援しないといけない内容かも知れないが、25周年に向けて努力して欲しい。

・委員

まずは、有馬富士自然学習センターの運営について、お礼申し上げる。

ちょうど1年前に、職員と議論したが私の一存で事業を決めた。結果的には良かったと思っている。

来年は、ひとはく25周年・市制60周年・ひとはく周辺を舞台としたホロンピア博から30年の節目の年となる。市とひとはくと協力して、何かできないかと思っている。また、「学びのまち 三田」を掲げ、高校や関西学院大学と連携を進めて事業もしている。

神戸市長とも話をして、隣接する北区との連携も図っている。今後とも、ひとはくとは連携を図りながら進んでいきたい。

・委員

レガシー継承・発信事業の話があったが、自然科学が好きな人以外に向けて、展示が開催できたのは、新たなアピールとなったのではないかと。従来の展示では、来館者層が何となく想像できたが、感覚に訴える今回の展示は新たな層を開拓できたと思う。

来年度の企画展で、「研究員のイチオシ」というのがあった。どんな方がどんな思いで研究されているのか、その人のパッションやまつわるストーリーが、来館者に共感を与えるのではないかと。研究者と来館者を取り持つ接点、ブリッジになるのでは、と期待している。4階の論文紹介でも、研究員のひとことがパネルにあるだけで、見え方が変わってくると感じた。

・委員

アウトリーチ事業について、伺いたい。中期目標にも数値があったが、リピート率は上がっているのか。それとも、行き先がだんだん増えているのか。

・博物館

幼稚園・保育園・学校には、あまり広報していなかった。応募の数が多くなりすぎると、困るためである。へき地の学校には、公募をかけていた。できるだけ、違う学校に行くようにしている。

何年か経過してから、かつて訪れた学校に行った例はある。当時の子どもたちが、以前のキャラバンを覚えてくれていて、感動したということもあった。学校以外の施設については、レポートが多少ある。数的には、そろそろコントロールしないといけない件数になりつつある。

- ・委員

美術に標本活用を企画したが、今年度は都合で実現しなかった。教科書に載っている昆虫の標本を、図工の教員とともに見せて授業をしようというものだった。学校教育には、こういった別分野への活用機会が、必ずあると思っている。

過日、西宮市内小学校のPTAの方とお話しする機会があった。話の流れから、ひとはくの話題となったが、相手の方はひとはくをご存じなかった。都会の小学校なので、虫を知らないとのこと。こんな博物館があってこんな活用ができる、柔軟に対応してくれるとアピールしたが、良く知る者がアピールしないと知られない現状に、もどかしさを感じた。

また、キャラバンのチラシを見て、裏面に応募動機等を書く欄が設けてあるが、利用する側からすると、やりたいが何ができるのか分からないので書けない。何かやってくださいとも書けないので、できる内容を例示するなど、書きやすくしていただけるとありがたい。

- ・委員

養父市でアートの取組をしている。元県立学校の校舎を活用して、企画展を毎年開催している。開館して5年目になり、3年目の昆虫展で八木研究員にお世話になった。今年は大恐竜展で、池田先生に協力をいただいている。

アートの作品展示は自分たちでできるが、標本などの展示は専門家の協力なくしてはできない。養父には、資料館や博物館、ひいては図書館さえない場所である。行政と民間が一緒になって、事業をする難しさは感じているが、いろんな事業を発信していきたい。

- ・委員

25周年ということで、第2世代（幼少時に来館した子が親となった、その子どもたち）が育っていると思う。第1世代の人が、第2世代の子たちと一緒に来ませんかという取組を進める時期に来ている。大学ではそのつながりを保つため、同窓会活動を重要視している。25周年を迎えるにあたり、周りを取り巻く環境、人はどう変わったのか、自分の研究分野とも重なり、非常に興味深く見守っている。

また、町屋での展示の話題があったが、先進的な取組のひとはくとは思っていたが、異業種交流の始まりかと思い、驚いた。

- ・博物館

情報提供を一つ。高校生の入館料が、無料にならないかとのお話があったが、来年度から条例改正により、無料化する方向で検討が進んでいる。

・博物館

収蔵庫についての意見、ありがたくいただく。予算がないので、何とかして欲しいと主管課によく伝えたいと思う。

小・中・高校生に、どうすればもっと来てもらえるか、知恵を絞らなければと思う。グリーンスクール表彰でも、中学校の応募が少ない。

特別支援学校等との交流、他の分野との連携も、今後図っていききたいと思う。

当館の25周年と、三田市制60年、ホロンピア30年をうまく活用して、事業が進められないかも、検討したいと思う。

また、研究員のパッションやブリッジについての発言もあった。まさに、研究員はパッションを持って事に当たらないといけない。再認識した。研究員の顔が見える研究発表、大事にしたい。

一つ、自慢させてください。館員が自発的に協議を重ね、25周年のロゴを作成しました。

ひとはくも25年経ち、こんなことができるようになった。

今日いただいた皆さまの意見を大事にし、今後の館の運営に活かしていきたいと思う。

本日は、ありがとうございました。